

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2004年放送分](#) > 1月24日放送分 食べるハーブで起業 ~地域に根ざした商品開発~

## 1月24日放送分 食べるハーブで起業 ~地域に根ざした商品開発~

1月24日(TX・TVO・TSC)

25日(TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVO・OTV)

26日(BSJ)

大分県のハーブ製品の製造販売業(株)ファインド・ニュース(資本金3,000万円、従業員数11名)は現社長が大学在学中に設立した会社。馴染みの薄い「食べるハーブ」に主眼をおいた商品開発を行っている。農家へのハーブ栽培委託など地域の外部資源を有効活用しながら、新しい発想で商品を次々と生み出し、着実に成長を遂げてきた同社の取り組みについて紹介する。

### 食べるハーブで起業

~地域に根ざした商品開発~

[視聴覚教材No. TV15-43](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



大分県湯布院にやってきた志垣さん。でも今日の行き先は温泉ではなく、ハーブ製品の製造販売を行っている会社。

こちらが高野社長。ファインド・ニュースの商品はハーブを食べることにこだわったものが中心。ハーブの代表格のバジルでは日本一の加工量を誇る。





代表的な商品はこのバジルペースト。

幼い頃、喘息のひどかった高野社長のために母親が様々な治療を試み、ハーブを料理などに取り入れたところ症状が改善。ハーブの良さを広く伝えたいと高野社長は大学在学中に会社を設立した。



ハーブは無農薬にこだわり、大分県内約40軒の農家へ栽培を委託。「契約栽培なので価格が安定している。良い物を作れば全て買い取ってくれるのがいいところ。」と契約農家の矢野氏は話す。

POINT: 地元農家との契約栽培で信頼関係を作る



ハーブの機能性を探る研究を産官学で行っている。その結果、委託栽培しているバジルにはほうれん草の4倍のカルシウムが含まれていることが判明した。



産官学での研究について「ベンチャー企業



が研究室を持つのは困難。地域密着型で地域資源を活用している。」と高野社長。

POINT: 地元の外部資源を積極的に活用する



自社工場で主に行うのはバジル製品の加工製造。それ以外の製品は、他社に原材料とノウハウを提供し、ロイヤリティを受け取っている。



大分大学 松尾教授は「日本ではまだ珍しいハーブ製品を作るノウハウ。それをソフトとして売れば、コストをかけずに成長できる。」と話す。

POINT: 商品開発型企业へとシフトし、コストを最小限に抑える



「人に役立つものを作れることを喜びとしながら、ハーブを通じて暮らしを豊かにしようという思いが母との間にあった。」と高野社長は語る。



高野社長に大きな影響を与えた母親の尚子さんも「事業が成功するとよいが、それ



よりも理念や素晴らしさを伝えていく役割、それを一生懸命やってくれたらうれしい。」と語った。

[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN